

切れ目のない充実した子ども・子育て支援

出会い 妊娠 出産 乳幼児 小・中学校

- お見合い事業 (ONIAI)
- 出会い創出事業
- 若者交流促進事業

- 不妊治療費などの全額助成
- 妊産婦の健康診査費用の完全無料化
- 妊婦支援給付
- パパママ教室の開催
- 妊娠・出産に係る相談ができるコーディネーターの配置 (保健センター)

- 赤ちゃん広場
- 産後ケア事業
- 周産期医療体制の充実

- 第1子からの保育料 完全無料化
- 中学生までの子ども医療費の完全無料化
- 病児・病後児保育施設利用料の助成
- 子育て支援センター
- ファミリー・サポート・センター
- 児童館・児童センター
- 放課後児童クラブ
- 保育士等就職支援事業 (保育人材の確保)
- 子どもの生活・学習支援 (保育園や認定こども園、幼稚園への施設整備補助)
- 給食費の負担軽減 完全無料化



妊娠・出産
不妊治療費などの助成
自己負担0円
★県内トップ

妊娠・出産
妊産婦健診費用
妊産婦期に受診する
健診 (国指定のもの)
無料

乳幼児
第1子からの保育料
無料

乳幼児 小・中学校
子ども医療費
無料
★中学生まで

3つの完全無料化

出会い
お見合い事業 (ONIAI)
無料
★登録料・紹介料

妊娠・出産
妊婦支援給付
妊娠・出産に係る
費用を
一部支援

妊娠・出産
周産期医療体制
周産期死亡率 (令和3年度)
2.0%
★全国トップクラス

乳幼児
保育の受け皿拡充
定員155人増
★R7年度比

小・中学校
給食費
小学生 無償化
中学生 据え置き
※実質値下げ

他にもさまざまな子育て支援事業が充実!

はびみゃこんじょ
～都城市子育て応援総合サイト～



乳幼児 小・中学校
こどものあそびば
整備中
★県内初大型の屋内型
公設遊戯施設

小・中学校
全小・中学校体育館
空調設備
整備中

1ターンで
子育て中のご家族に
話を聞きました!

Interview



◀福堂隼人さん (左) とご家族

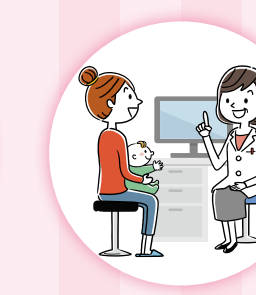
8年前に平江町で福堂整骨院を開院し市外の居住地から通勤していましたが、「都城市は子育て制度が手厚い」と聞き、結婚出産を機に昨年3月に移住しました。夫婦ともに都城市出身ではないため、当時は知り合いも少なく、新しい生活への不安はもちろんありました。それでも、一歩踏み出してみると、地域の方々が本当に良くしてくださり、すぐに安

心することができました。

実際に都城で暮らし、子育てをしていて感じるのは、生活に必要な施設やサービスが身近にそろい、どこに行くにもとても便利なこと。駐車場が広く、小さな子どもの遊具が充実した大きな公園がたくさんあるのも、本当にありがたいですね。思い切って都城市に移住して、本当に良かったです。

子育てするなら

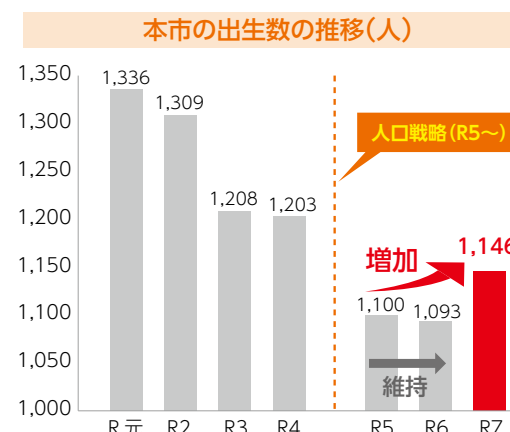
帰っておいでよ、都城



全国で少子化が進行する中、本市の令和7年度の出生数は1,146人となり、12年ぶりに増加へと転じました。この背景には、「安心して子どもを産み育てられるまち」の実現に向け、人口戦略を「究極のインフラ整備」と位置付けて、未来への投資を積極的に進めてきた本市の取り組みがあります。今回は、ライフステージに合わせた本市の切れ目のない充実した子ども・子育て支援について紹介します。

◎問い合わせ 人口対策課 ☎23-0934 こども政策課 ☎23-2684
保健センター ☎36-5661 保育課 ☎23-4894

ライフステージに応じた切れ目のない支援
不妊治療費などの助成が県内トップで自己負担ゼロであるほか、安心の周産期医療体制も整っています。さらに、3つの完全無料化による保育料などの家計負担の大幅な軽減を



人口戦略が功を奏し、出生数も12年ぶりに増加へ
市では、令和5年度から積極的な人口戦略に取り組み、切れ目のない充実した子ども・子育て支援を実施してきました。その結果、令和7年度の出生数は前年度比53人増の1,146人となり、平成25年度以来、12年ぶりに出生数が増加するという大きな成果につながっています。

新しい一歩に寄り添う、安心の移住相談体制
市では、新しい環境へ一歩を踏み出す皆様に寄り添い、その不安や疑問を一緒に解消するため、移住・定住サポートセンターを設置しています。電話や窓口だけでなく、メールやオンラインでもきめ細やかな相談体制を整えています。ぜひ、紹介・利用ください。
※各種支援制度や住まい、仕事、移住者の声など、移住を検討するために必要な情報について詳しくは、移住・定住特設サイト「住めば住むほど都城」を確認ください



はじめ、現在は県内初的大型公設屋内型遊戯施設「こどものあそびば」の整備や、全ての小・中学校体育館への空調整備など、新たな事業にも取り組んでいます。
今後も、人口戦略を「究極のインフラ整備」と位置付け、出会いから妊娠・出産、乳幼児期・小・中学校期まで切れ目のない手厚い子ども・子育て支援の充実をはじめ、さまざまな施策をしっかりと推進してまいります。